

生物多様性さっぽろビジョンの進捗状況

1. 札幌市内における生物多様性保全に向けた取組内容

札幌市では「生物多様性さっぽろビジョン」に基づき、生物多様性に対する理解の促進及び保全に向けた行動の実践を推進するため、さまざまな取組を進めている。

(1) 普及啓発事業

生物多様性フォーラム、夏の特別企画展

札幌市では、生物多様性を広く普及啓発する取組の一つとして、フォーラムや夏の特別企画展等の開催を行っている。

年度	事業名	参加数	内容
H29	生物多様性フォーラム	62	・講演 「生物多様性保全のための外来種対策」 「希少猛禽類保護活動を通じた生物多様性の保全」
H30	生物多様性フォーラム	92	・環境活動団体活動報告 一般社団法人 北海道自然保護協会、NPO法人北海道森林ボランティア協会、NPO法人札幌カラス研究会 ・講演「札幌のコウモリ」
R1	夏の特別企画展 「探そう！札幌の身近な生き物展」	3,700	外来種を含めた近所の公園で見られる生き物の展示、専門家による解説、キッズスタッフによる展示制作
R1	生物多様性フォーラム	中止	・環境活動団体活動報告 藤女子中学校・高等学校科学部、西岡ヤンマ団
R2	Web特別企画展 「さっぽろいきものがたり」	2,608	ヒグマと人、希少種と外来種、気候変動と生き物をテーマとしたWebサイトを構築して公開。（作成した動画は札幌市広報部のYouTubeで公開）
R2	生物多様性、脱炭素ウェビナー	52	生物多様性保全や脱炭素社会に関心の高い企業を対象にした企業向けウェビナー。気候変動と野生動物をテーマとした基調講演、札幌市気候変動対策行動計画（案）の説明、市内企業による環境保全や脱炭素社会に向けた取組を紹介。
R2	オンラインワークショップ ～親子で外来生物を知ろう	親子58組	外来生物の問題等について理解を深め、市民の生物多様性に対する関心の創出や理解度の向上を図ることを目的として専門家と円山動物園職員を講師として、オンラインワークショップを実施。

まちなか生き物活動（H30年度まで実施）

生物多様性に対する市民の関心と理解を深めるとともに、多様な主体の行動や連携の促進を図ることを目的に、札幌市域（特に市街地）で行う生物多様性の保全活動を実施した。

年度	テーマ	参加者数
H25	○さっぽろシードソン2013～秋の生き物調査隊～ など	506
H26	○ミツバチ観察会と採蜜体験 ○コウモリが飛ぶ！みどり豊かなさっぽろのまち～大人のための生物多様性講座～ など	131
H27	○地元食材を使った食育料理教室 ○出前子ども自然体験活動～守屋開先生の精進川の水生生物と命のつながり～ ○未来に残そう！みんなで集める生き物データ など	189
H28	○昆虫採集教室inトンネウス沼 ○エゾシカ肉の料理講習会 など	271
H29	○街路樹マッピング ○ワークショップ「外来種と生き物の飼育を考える」 など	239
H30	○夏休み子ども鹿角工作 ○サーモンフットパス水をくんで魚を調べる！～環境DNA体験とサケの観察フットパス～ など	426

普及啓発ツールの作成

札幌市の指標種についてイラスト等でわかりやすく解説した「さっぽろ生き物ミニ図鑑」、「札幌市版レッドリスト 2016」について子ども向けにわかりやすく解説したハンドブック「まもろう札幌の仲間たち。」、子どもから大人まで生物多様性を守るために今すぐにできる行動をまとめた「今、できることからはじめよう！！～生物多様性さっぽろ実践ハンドブック～」などの冊子や、動画「さっぽろ生き物チャンネル」を作成しYouTubeで公開するなど、各種生物多様性に関する普及啓発ツールを作成している。



ハンドブック等	制作数
さっぽろ生き物ミニ図鑑	31.2印刷 10,000部 ※R元年度以降はさっぽろ生き物さがし参加者に配布
まもろう札幌の仲間たち。	29.3印刷 3,000部、29.6増刷 1,000部、R2.3増刷 1,500部
生物多様性さっぽろ実践ハンドブック	26.3印刷 3,000部、26.8増刷 30,000部
生き物かるた	29年度 1,000個、30年度 300個

生物多様性さっぽろ絵本コンテスト

生物多様性をより身近に感じ、将来に守り引き継いでいくことの大切さを伝えるため、子ども向け絵本作品を募集する「生物多様性さっぽろ絵本コンテスト」を平成26年度から平成28年度に実施している。

年度	応募作品数	配布部数	配布先件数
H26	20	3,420	545
H27	67	3,760	586
H28	36	5,175	481

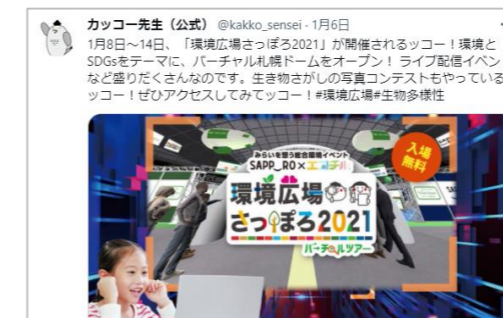
生物多様性シンボルマーク、キャッチコピー作成

平成25年12月から平成26年1月にかけて「生物多様性シンボルマーク総選挙」と「生物多様性キャッチコピーコンテスト」を実施し、本市の生物多様性シンボルマークとキャッチコピーを決定しました。



カッコー先生公式Twitterの運用

生物多様性の保全に関する様々な情報をより多くの方に拡散・波及させるため、令和3年5月から札幌市の生物多様性PRキャラクター「カッコー先生」の公式Twitterを運用。

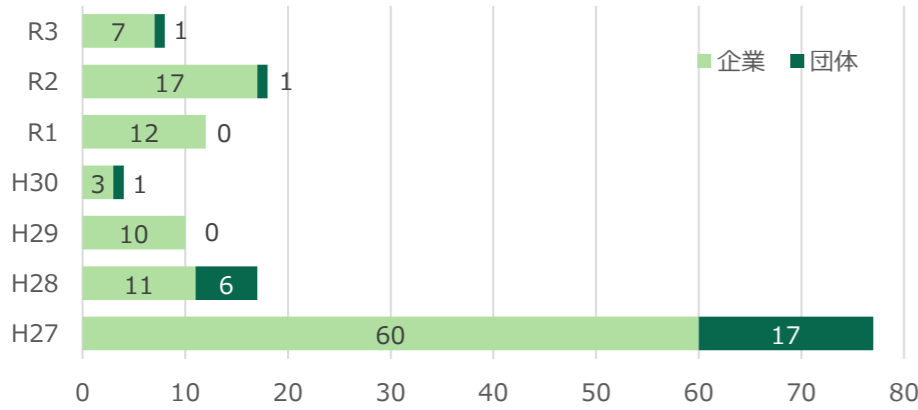


(2) 企業や拠点施設との連携など

生物多様性さっぽろ応援宣言 (理解、協働、継承、活用)

平成27年9月に制度開始。生物多様性の保全に積極的に取り組んでいる企業・団体を、「生物多様性さっぽろ応援宣言企業・団体」として登録し、札幌市がその取組をPRして、企業・団体の取組を支援するもの。令和元年度までは地下歩行空間等でのイベント(環境報告書展)、令和2年度以降はバーチャル環境広場さっぽろで各企業の取組を紹介。令和3年12月末現在、120企業、26団体が登録。

年度別宣言企業、団体数の推移



生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク (理解、協働、継承、活用)

生物多様性さっぽろビジョンの推進を図るため、平成25年10月31日に「生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク」を立ち上げた。このネットワークは、市内にある環境関連施設を生物多様性に関する活動拠点として位置付け、ネットワーク化を図るもので、情報の共有や連携・協働を進めることにより生物多様性保全の取組を効果的に進めている。連携事業として、「いきものつながりクイズラリー」や「バスツアー」を実施。その他、個別の施設と連携して外来種防除、普及啓発事業などを実施。

活動拠点：19施設

札幌市水道記念館、札幌市円山動物園、札幌市下水道科学館、札幌市環境プラザ、百合が原公園、サッポロさとらんど、札幌市豊平公園緑のセンター、札幌市博物館活動センター、札幌市平岡樹芸センター、サンピアザ水族館、北海道博物館、札幌市豊平川さけ科学館、札幌市保養センター駒岡、札幌市青少年山の家、滝野自然学園、札幌市北方自然教育園、サッポロピリカコタン、札幌市定山溪自然の村、札幌市動物管理センター

●いきものつながりクイズラリー参加者の推移

年度	事業名	参加者数	延べ人数(回答者数)	開催期間	参加施設数
R3	いきものつながりオンラインクイズラリー2021	285名	285名	27日	19
R2	いきものつながりオンラインクイズラリー2020	298名	298名	40日	16
R1	いきものつながりクイズラリー2019	245名	1,328名	37日	18
H30	いきものつながりクイズラリー2018	253名	1,505名	35日	18
H29	いきものつながりクイズラリー2017	294名	2,060名	77日	16
H28	いきものつながりクイズラリー2016	255名	1,699名	107日	15
H27	いきものつながりクイズラリー2015	262名	1,626名	74日	14
H26	いきものつながりスタンプラリー	212名	1,060名	196日	13

●バスツアー参加者の推移

年度	事業名	参加者数	参加施設数
R1	生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークバスツアー2019(第2回)	44名	2
R1	生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークバスツアー2019(第1回)	39名	2
H30	生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークバスツアー2018	40名	3

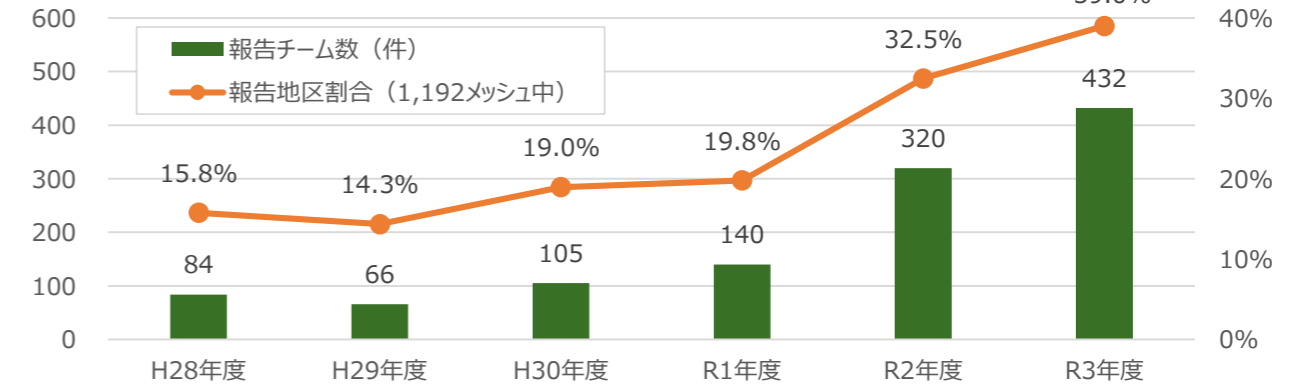
(3) 調査事業

市民参加型生き物調査「さっぽろ生き物さがし」(理解、協働、継承、活用)

平成28年度から、札幌らしい生き物である「指標種」の生息・生育状況の市民参加型調査を開始し、毎年継続して実施している。

令和3年度は報告チーム数432、参加者数2,185名、調査データ数は11,964件で過去最高となった。調査によって得られた結果は毎年蓄積し、市内の自然環境の変化の把握に活用している。

さっぽろ生き物さがし実施結果



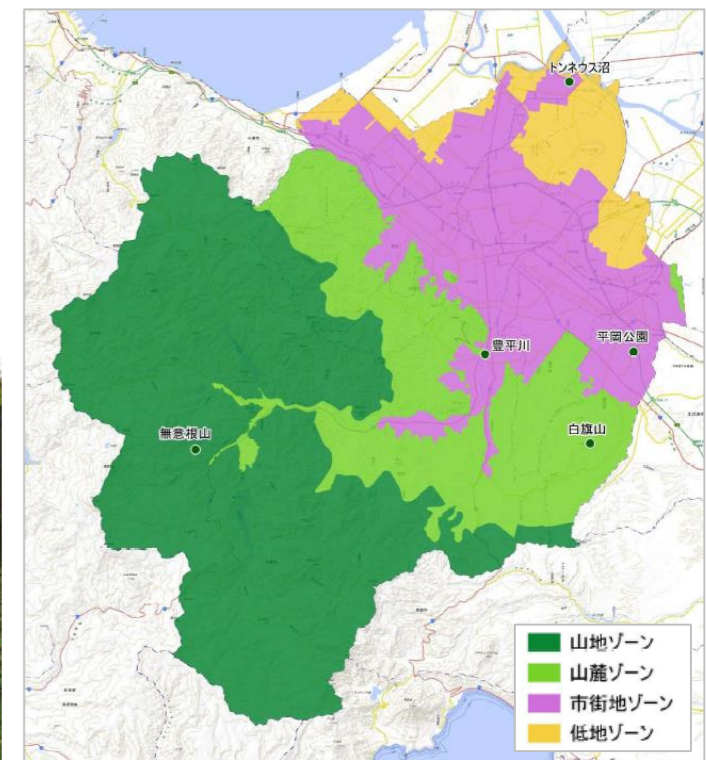
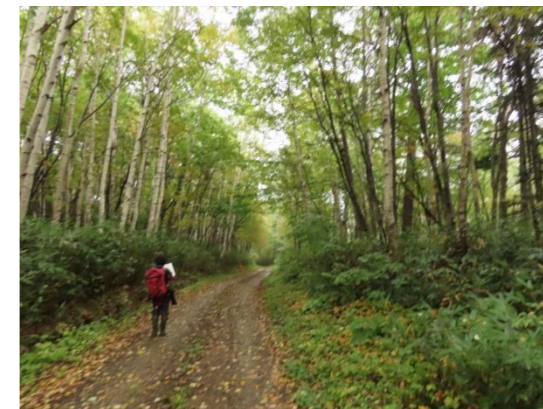
参加者から寄せられた生き物写真(人気投票によって選ばれた上位のもの)

自然環境調査(理解、継承、活用)

市内の生物多様性の状況や変化の傾向を把握するため、「生物多様性さっぽろビジョン」で定める5つのゾーンについて、それぞれ代表するモデル地域を選定し、各地域の自然環境を把握することを目的とした動植物調査を実施している。

※5地点：無意根山、白旗山、平岡公園、トネウス沼、豊平川

令和元年度：植物
令和2年度：哺乳類・鳥類・両生爬虫類
令和3年度：魚類・底生生物
令和4年度：昆虫
※詳細は別紙参照



協働型生き物調査（理解、継承）

市民団体等と連携し、各団体で行っている調査、観察会のデータの提供を受け、効率的に動植物データを収集する。

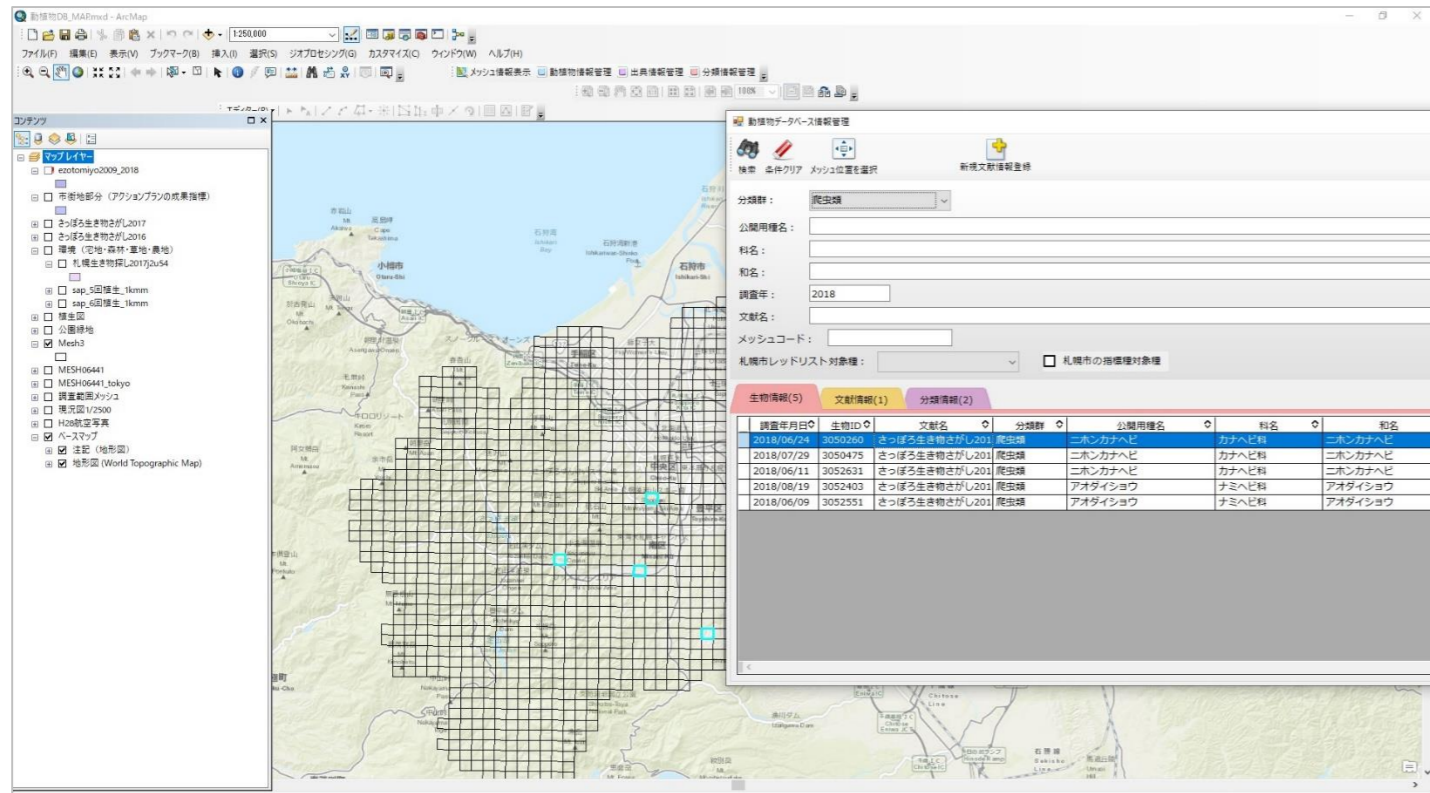
※令和元年度：里塚緑が丘地区希少動物調査、日本野鳥の会札幌支部、自然ウォッチングセンター
令和2年度：北海道森林ボランティア協会、北海道爬虫両棲類研究会

確認種数	指標種	確認種名	絶滅危惧種	確認種名	外来種	確認種名
R01 日本野鳥の会 札幌支部	134	7	オオジシギ、カッコウ、オシドリ、アカゲラ、クマガラ、フクロウ、カワセミ	17	オオアカゲラ、オオジシギ、オオセグロカモメ、オオタカ、オオウシ、オシドリ、オジロワシ、ギンザンマシコ、クマガラ、チュウヒ、ハイタカ、ハチクマ、ハヤブサ、ヒバリ、ホオアカ、マガン、ミサゴ	
R01 自然ウォッチング センター	780	25	アカゲラ、アブラゼミ、エゾアカガエル、エゾハルゼミ、エンレイソウ、オオバユリ、オシドリ、オドリコソウ、カッコウ、クサフジ、クマガラ、コエゾゼミ、サクラマス、シオカラトンボ、スナヤツメ、ニホンカワトンボ、ヒグマ、フクジュソウ、ミズバショウ、モズガニ、モンキチョウ	27	イワモギ、エゾエノキ、エゾサンショウウオ、エゾシモツケ、エゾタンポポ、エゾハナシノブ、エゾライチョウ、オオアカゲラ、オオタカ、オオバタチツボスミレ、オシドリ、オジロワシ、クマガラ、クリンソウ、クロユリ、コオニヤンマ、コジマエンレイソウ、サルメンエビネ、スズラン、タカネトンボ、トクラン、ノハナシヨウバヤブサ、ヒグマ、ヒバリ、ホオアカ、ミヤマビャクシン	
R02 ハーブソ	12	1	エゾアカガエル	1	エゾサンショウウオ	4 アズマヒキガエル、ツチガエル、トノサマガエル、ミシシッピアカミミガメ
R02 森林ボランティア 協会	26			1	エゾサンショウウオ	

動植物データベース（理解、継承）

平成30年3月に、GISソフトウェアを利用して構築した市内の動植物の生息・生育状況及び文献情報を一元的に管理するためのデータベース。

上記調査により得られた生き物情報を、都度データベースに取り込んで蓄積している。
令和3年11月末現在、約191,000件のデータを管理している。



(4) 保全事業

札幌市版レッドリスト2016の策定及びさっぽろの指標種設定

平成25年3月に策定した生物多様性保全のための指針「生物多様性さっぽろビジョン」に基づき、札幌市に生息・生育する絶滅のおそれのある野生生物の現状を明らかにするとともに、生物多様性の保全に対する理解と取組の促進を図ることを目的として、「札幌市版レッドリスト2016」を作成。

★レッドリスト掲載種

札幌市における絶滅のおそれのある動植物297種類を掲載した。内訳は下表のとおり。カテゴリーについては環境省レッドリストに準じて設定した。ただし、環境省の「絶滅」と「野生絶滅」については「今見られない」に統合し、北海道のカテゴリーと同様「留意」を設定した。なお、札幌市の面積が限られているため「地域個体群」の設定はない。

●札幌市版レッドリストのカテゴリー別選定種数一覧

分類群	今見られない (EX+EW)	絶滅危惧 IA類 (CR)	絶滅危惧 IB類 (EN)	絶滅危惧 II類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)	情報不足 (DD)	留意 (N)	合計
哺乳類	2	1	0	3	1	5	2	14
鳥類	2	1	3	6	11	6	4	33
両生類・爬虫類	0	0	0	0	1	1	0	2
淡水魚類・水生生物	0	1	2	3	4	0	2	12
昆虫類	5	4	12	17	64	9	2	113
植物	3	8	12	48	41	1	10	123
合計	12	15	29	77	122	22	20	297

★指標種

札幌市内で見られる生態系（森林、草地、市街地、河川、湿地、田）を代表し、その環境の指標となる動植物として36種を選定した。

指標種調査を継続的に実施することで、札幌市域の自然環境の変化を把握する。

→「さっぽろ生き物さがし」による市民参加型調査の開始及び札幌市内を代表する5地点で自然環境調査（専門業者による調査）を実施。

●指標種確認状況

No.	種名	確認年	No.	種名	確認年
1	オオジシギ	2018、2019	19	ガマ	2018、2019、2020
2	カッコウ	2018、2019	20	エゾアカガエル	2018、2019、2020
3	オシドリ	2017、2019、2020	21	シロザケ	2016～2020
4	アカゲラ	2016、2019、2020	22	サクラマス	2019、2020
5	クマガラ	2016、2019、2020	23	アメマス	2019
6	キアゲハ	2016、2018、2019、2020	24	スナヤツメ	2019
7	モンキチョウ	2016、2018、2019、2020	25	エゾホトケドジョウ	2020
8	シオカラトンボ	2016、2017、2018、2020	26	ハナカジカ	2019
9	ハネナガキリギリス	2017、2019、2020	27	ニホンザリガニ	2019
10	エゾハルゼミ	2019、2020	28	モズガニ	2019、2020
11	コエゾゼミ	2019、2020	29	ヒグマ	2020
12	アブラゼミ	2019、2020	30	フクロウ	2019、2020
13	フクジュソウ	2019	31	カワセミ	2019、2020
14	ミズバショウ	2019	32	ニホンカワトンボ	2019、2020
15	エンレイソウ	2019	33	オドリコソウ	2019
16	オオバユリ	2019、2020	34	ネジバナ	2020
17	キツリフネ	2016、2019	35	サワギキョウ	2019
18	クサフジ	2016、2019	36	ミズアオイ	2020

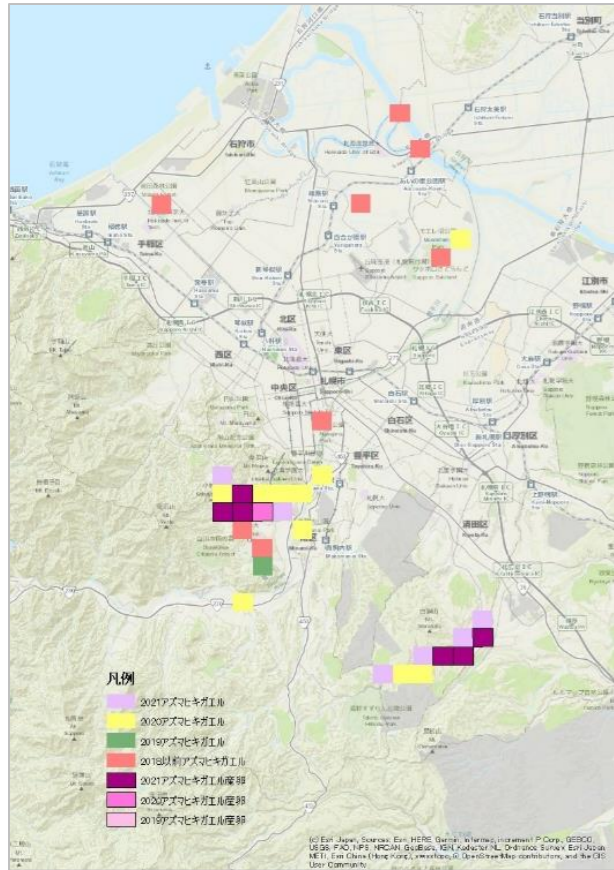
外来種対策

特定外来生物については、オオハンゴンソウ、オオキンケイギク、オオフサモに関する防除実施計画を定めており、必要に応じて刈り取りなどの防除を実施している。

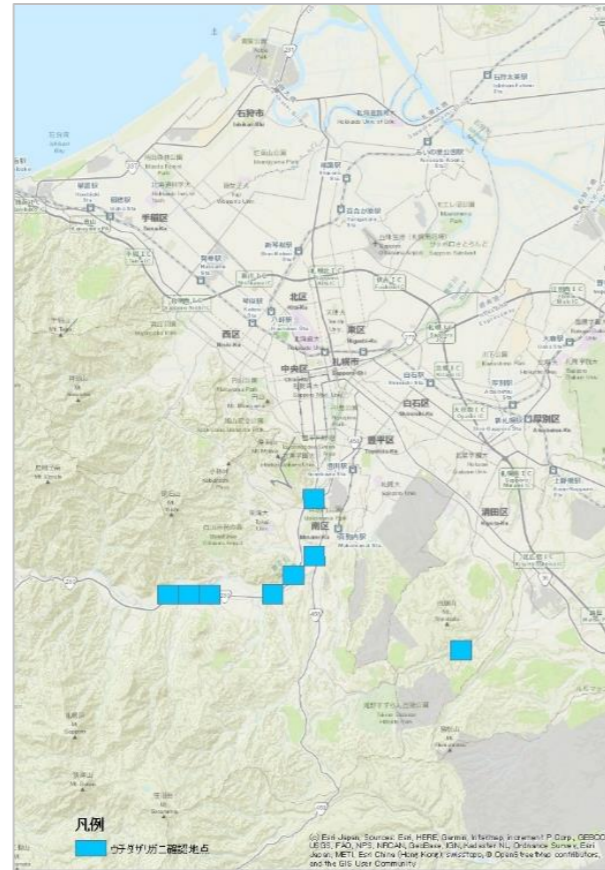
ウチダザリガニについては令和元年に豊平川で確認されて以降、分布調査を実施。今後防除実施計画を定めて定期的な防除を実施する予定。

アズマヒキガエルについては令和元年に市内での産卵が確認されて以降、対策を実施。産卵池の特定と罠を活用した捕獲による防除を実施。

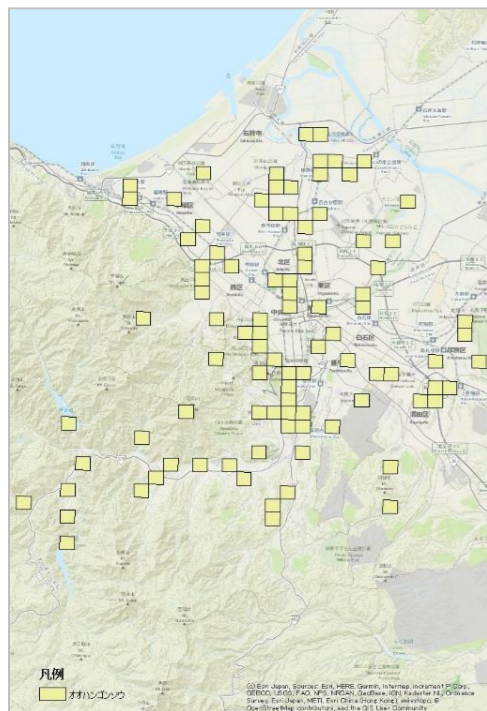
● 外来種分布状況



▲ アズマヒキガエル



▲ ウチダザリガニ



▲ オオハンゴンソウ

■ 駆除にご協力をお願いします！ SAPPORO
特定外来生物ハンドブック
 -植物編-



オオハンゴンソウ



オオキンケイギク



オオフサモ

オオハンゴンソウ・オオキンケイギク・オオフサモは、札幌市内で分布が確認されている**特定外来生物**です。特定外来生物は、外来生物法により、**植えたり、生きたまま運んだりすることが禁止**されており、違反すると個人の場合3年以下の懲役又は300万円以下の罰金、法人の場合1億円以下の罰金が科せられます。

※ 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律

-札幌市-



2. 生物多様性さっぽろビジョンの進捗状況

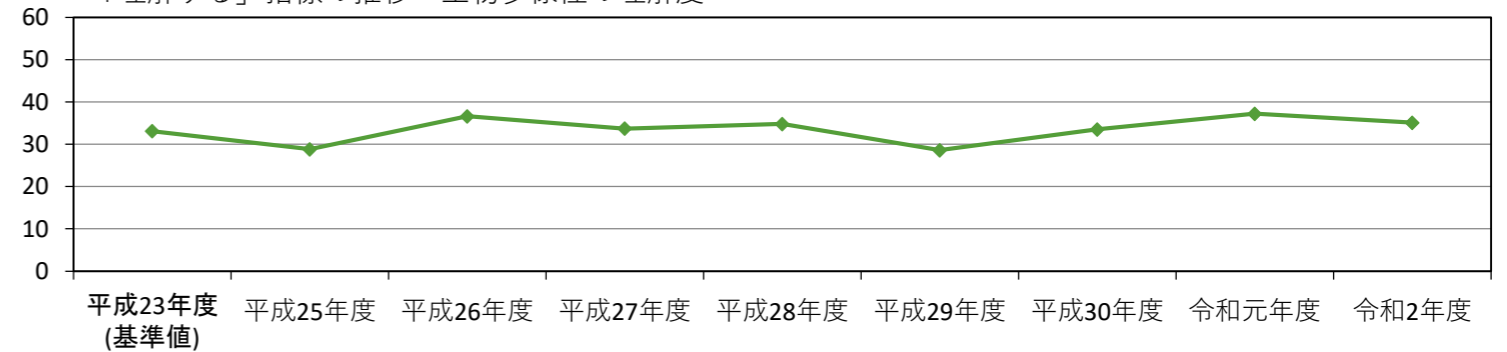
「生物多様性さっぽろビジョン」では、推進する施策として立てた「理解する」「協働する」「継承する」「活用する」の4つの柱ごとに成果指標を定めて、進行管理を行っている。

進行管理

ビジョンの進捗状況を確認・評価するための指標及び目標値(%)とその推移

施策の柱	指標	平成23年度(基準値)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度(目標値)	
理解する	生物多様性の理解度	33.1	28.8	36.6	33.7	34.8	28.6	33.5	37.2	35.1	60	
協働する	生物多様性保全活動に参加したり、取り組んでいる市民・事業者の割合	市民	5.0	4.4				3.1		3.3	10	
		事業者	40.4	44.4	64.3	66.6	64.5	58.9	51.1	46.6	53.6	60
継承する	主な生息・生育地における指標種の生息状況	-	-	-	-	-	-	-	-	○ 指標種の生息を確認	生息し続けていること、又は増えていること	
活用する	自然と積極的に触れ合っている市民の割合	24.2	19.5				27.0			27.4	35	
	市民の地産地消や環境配慮商品の利用促進	地産地消	65.7	59.3				60.7			67.2	75
		環境配慮商品	27.4	25.0				18.1			19.6	50
	事業者の原材料調達時の配慮の促進	30.0	57.5	69.4	44.7	50.0	59.4	52.6	50.0	52.2	50	

「理解する」指標の推移：生物多様性の理解度



目標値に対する評価

令和2年度を目標年次と定めた各指標について、市民アンケート及び企業アンケートにより達成度を確認した。

「生物多様性の理解度」(理解する)は令和2年度で35.1%と目標値の60%を大幅に下回った。

また、「生物多様性保全活動に参加したり、取り組んでいる市民・事業者の割合」(協働する)は市民3.3%、事業者53.6%と目標値に届いていない。

「主な生息・生育地における指標種の生息状況」(継承する)については、これまでの市民参加型指標種調査、自然環境調査等により、36種全ての指標種の生息を確認。

「活用する」の指標については、「自然と積極的に触れ合っている市民の割合」及び「市民の地産地消や環境配慮商品の利用促進」は目標値を下回ったが、「事業者の原材料調達時の配慮の促進」は目標値の50%を上回り、目標を達成した。